デジタル・トランスフォーメーションの取り組みについて

1. 茅ヶ崎市デジタル化推進方針に基づく取り組み

本市では、本市におけるデジタル化を推進していくための考え方や行動の基本を示すものとして、令和5年3月に「茅ヶ崎市デジタル化推進方針（以下「方針」という。）を策定し、「地域社会のデジタル化（デジタルファーストによるサービスの提供）」「行政内部のデジタル化（デジタル技術を活用した徹底的な事務効率化）」「安全・安心なデジタル化（誰も取り残さないデジタル社会の実現）」の3つの方向性を定め、5年度から取り組みを進めています。

(1) 令和6年度の主な取り組み

区分	想定される主な取り組み	主な取り組み実績
地域社会のデジタル化	行政手続のオンライン化・キャッシュレス化 オンライン相談 マイナンバーカードの更なる普及促進 効果的な情報発信	行政手続のオンライン化の推進（約64,000件の申請数） 行政手続のキャッシュレス化の推進（戸籍・住民票の写し・各種税証明等については、申請から決済まで一本化） 書かない窓口の運用（証明発行・住民異動・児童手当・小児医療等を対象） マイナンバーカード取得・各種手続き支援の実施（R6.12月現在のカード保有率は78.8%） 国が実施する医療DXの一環であるPMH（Public Medical Hub）の実証実験に参加（県内では横浜市及び本市）。これにより、7年度から対象医療機関において、子ども・障がい分野の医療費助成において、マイナンバーカード1枚で受診可（現在は受給者証が必要） 市公式ホームページ、各種SNSを活用した情報発信
行政内部のデジタル化	AI・RPAの更なる利用推進 ノーコードツール等の活用 テレワーク本格導入に向けた課題の整理等 システム標準化・共通化への対応	RPAツールの徹底活用（約20,468時間の稼働） AI議事録作成支援システムの活用（平均148時間の議事録作成時間削減） ノーコードツールの活用（1,000アカウント以上活用） テレワーク実証実験の継続実施 システム標準化・共通化に向けた準備
安全・安心なデジタル化	行政内部のセキュリティ対策 データ活用の推進 デジタルデバイド対策	情報セキュリティ対策の実施 オープンデータの公開 (シニア向け) スマホ教室の開催（市役所本庁舎及び各公民館で実施）

(2) 令和7年度の取り組み

令和7年度の取り組みの主な方向性は次のとおりです。

区分	主な方向性
地域社会のデジタル化	総合計画実施計画2025の期間である令和7年度までに、オンライン化率100%を目指します。
行政内部のデジタル化	AI・RPA等のツールについては、全ての課かいて活用することを目指し、これまで以上の業務効率化を目指すとともに、テレワークについては、実施を希望する職員が活用できるよう、継続して運用していきます。 また、自治体システムの標準化・共通化については、令和7年度までの移行期間に向け、着実に対応できるよう継続して調整・作業を実施します。

安全・安心なデジタル化	引き続き信頼度の高い行政サービスを提供するため、情報セキュリティ対策を実施するとともに、データ活用の観点から、オープンデータを公開します。 また、より多くの市民がデジタル化の恩恵を受けられるよう、取り組みを進めていきます。
-------------	--

※併せて、方針の一部改訂を行います。

2. DX 人材育成に向けた取り組み

(1) 研修について

国が定める自治体 DX 推進手順書のステップ 0 に位置付けられている「DX 機運醸成・意識改革」を目的として、総務省の地域情報化アドバイザー制度等を活用しながら、令和 4 年度より継続して研修を実施しています。

年度	対象	研修回数
令和 4 年度	市長～全課かい長 希望する職員	1 回 1 回
令和 5 年度	全主幹及び課長補佐 希望する職員	4 回 3 回
令和 6 年度	一般職員（希望者）	2 回

(2) 方針策定について

令和 5 年 1 2 月に改訂された「人材育成・確保基本方針策定方針」に新たに位置付けられた「デジタル人材の育成・確保」や 2040 年問題等の諸課題に適切に対応するために、「(仮称) DX 人材育成方針」の策定作業を進めています。

方針では、DX 人材育成施策として、「自発的に学習を行える環境の構築」「業務改革機会の提供」「DX 相談プラットフォームの構築」等を検討しています。

(3) 令和 7 年度の取り組みについて

令和 6 年度と同様に、一般職員向けの研修を 5 回実施する予定です。

本研修を通じて、DX の認識共有・意識改革を継続し、機運醸成を行っていきます。

また、今後策定する「(仮称) DX 人材育成方針」に基づき、前述した研修を受講した職員が保有するスキルや経験の見える化を行うとともに、スキル/レベル別の目標人数も設定していきたいと考えています。